

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第13号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第13号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年(°C)	R3(°C)	平年差(°C)	平年(°C)	R3(°C)	平年差(°C)	平年(°C)	R3(°C)	平年差(°C)	平年(mm)	R3(mm)	平年比(%)	平年(hr)	R3(hr)	平年比(%)
7月	1	25.4	27.4	2.0	29.2	31.3	2.1	22.4	24.7	2.3	90.3	40.5	45	16.3	14.2	87
	2	26.1	27.3	1.2	30.1	30.0	-0.1	23.0	25.6	2.6	83.2	49.0	59	20.3	2.9	14
	3	26.7	27.5	0.8	30.9	32.2	1.3	23.5	24.4	0.9	61.9	12.0	19	24.2	31.7	131
	4	27.3	27.6	0.3	31.8	33.1	1.3	23.9	23.8	-0.1	43.1	6.0	14	28.0	31.7	113
	5	27.7	29.0	1.3	32.5	33.9	1.4	24.2	24.7	0.5	36.2	0.0	0	31.4	26.2	83
	6	28.1	28.8	0.6	33.0	35.0	2.0	24.5	24.0	-0.5	39.2	11.5	29	41.0	58.2	142

○7月6半旬の平均気温は、平年に比べて0.6°Cほど高く推移した。また、まとまった降雨等もなく多照となった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報（7月29日発表）（予報期間 7月30日から8月29日まで）

向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みです。

2. 水稲情報田の生育状況（調査日：8月3日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/12移植 武雄市橋町	本年値	94.0	362	12.2	36.9	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く、茎数は平年よりやや少ない。 主幹出葉数は平年より0.4葉少ない。 ※幼穂形成始期7月22日頃 ※葉耳間長 -1cm~+2cm 葉耳間長からみた出穂予想日は8月10日頃。 葉色は平年より濃い。
	平年値	85.3	376	12.6	35.1	
	平年比	110	96	-0.4	+1.8	
さがびより 6/19移植 武雄市橋町	本年値	67.1	435	11.6	37.7	<ul style="list-style-type: none"> 草丈および茎数は平年並み。 主幹出葉数は平年並み。 葉色は平年より薄い。 ※幼穂長 0, 2mm ※中干し7/24~7月28日
	平年値	68.7	440	11.7	38.8	
	平年比	98	99	-0.1	-1.1	

※夢しずくおよびさがびよりの平年値はH21~R2の平均値。 耕種概要は稲作情報第8号参照

3. 管内の生育状況（8月3日時点）

- 1) 七タコシヒカリ：現在、成熟期である。
- 2) 夢しずく（普通期）：現在、穂孕期である。7月上旬の曇天の影響を受けて、全般的に草丈は高い。

《参考》管内における夢しずく生育状況：8/3時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
6/10 移植（江北町）	穂孕期	葉耳間長 + 1 c m
6/12 移植（江北町）	穂孕期	葉耳間長 + 3 c m

- 4) ヒノヒカリ・さがびより：穂首分化期～幼穂形成期始期である。

《参考》管内におけるヒノヒカリ・さがびより生育状況：8/3時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
さがびより 6/20 移植（武雄市）	まもなく 幼穂形成始期	幼穂長 0.1 mm
ヒノヒカリ 6/20 移植（武雄市）	幼穂形成期	幼穂長 3～5 mm

4. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、穂孕期である。

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期である。特に穂孕み期から穂揃期（8月1日～8月18日）は浅水管理とする。
- ・初期生育量が十分に確保できずに、幼穂形成期以降草丈が伸長しうっぺいした圃場を散見する。そのような圃場では紋枯病を確認しているのので、早期防除に努める。

(2) 普通期水稻

○現在、まもなく幼穂形成始期である。

7月上旬の曇天の影響を受けて、草丈が高く葉色が濃くうっぺいした圃場を散見する。

そのような圃場では、「葉いもち病」の病斑を確認しているのので、穂肥の施用については、下記の診断基準に基づいて適期適量施用する。

①ヒノヒカリ

○6月下旬に移植されたヒノヒカリは、幼穂形成始期を迎えており穂肥施用時期となる。

下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。

【表 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16 日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	40 以上	15 日	15～30mm	1.0kg/10a
80 cm 以上	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5 以上	38 以上	穂肥は施用しない		

②さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となる。

幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用する。

【表 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg/10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	7.5cm以下 (標準)	2.5以下	33以下	5ミリ	20~18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
	7.5cm~ 8.0cm	3.8以上	39以上	施用しない		
		3.0以下	36以下	10ミリ~15ミリ	18~16日	1.5kg
	3.0以上	37以上	施用しない			
8.0cm以上	施用しない					

(3) 病害虫対策

1) いもち病

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する
発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂前い期にも防除を行う。
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉色が濃い圃場で、葉いもち病の病斑を確認している。
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。



2) ウンカ類

- ・本年は、平年に比べ20日早い梅雨入りとなり、5月中旬から飛来を確認され、5月11日、7月4日、7月8~9日、12~13日にトビロウンカの飛来が確認されている。
- 8月の気温は平年より高いと予想されており、今後増殖する恐れがあるため、本田防除の適切な実施が極めて重要である。
- 図1 トビロウンカにおける各世代の発生予測（稲作情報第12号参照）を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底する。
- なお、トビロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

※8月3日現地巡回調査では、トリフルメゾピリム剤を使用している圃場の幼虫は若令を確認している。

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月3日							
6月12日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく情報田(武雄市橋町) ※ゼクサロン剤 ※8/3ヘリ防除
6月12日移植	0	0	0	0	2	0	夢しずく(江北町) ※ゼクサロン剤
6月12日移植	3	1	0	0	2	1	夢しずく(江北町) ※ゼクサロン剤(播種同時)
6月16日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(白石町馬洗) ※ゼクサロン剤(播種同時) ※防除済
6月16日移植	1	0	0	0	3	0	夢しずく(白石町辺田) ※ゼクサロン剤 ※密苗
6月19日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(白石町新明) ※ゼクサロン剤(播種同時) ※8/2ヘリ防除
6月19日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより情報田 ※ゼクサロン剤 ※8/3ヘリ防除
6月19日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより(武雄市橋町) ※ゼクサロン剤 ※8/3ヘリ防除

25株払落し総数

3) コブノメイガ

- ・今年、6月3～4日頃、7月3～4日頃に飛来があった。本年は、前年比べて飛来量は少ないものの、断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる予想される。このため、1回の散布で全ての飛来波のコブノメイガを完全に防除することは困難であるが、トビイロウンカの発生状況も考慮して効率的かつ効果的な防除ができる時期に実施する。
- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）である。



コブノメイガによる食害

4) 斑点米カメムシ

- ・「夢しずく」はまもなく出穂期を迎えることから、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。
- ・出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

5) 紋枯病

- ・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。（液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする）



紋枯病

4. 気象災害対策

(1) 台風対策

- 台風対策は、水稻の生育ステージによって異なりますが、本田移植後（活着期以降）は、強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、深水管理を行う。
併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努める。

(2) 干ばつ対策

- ①幼穂形成期から出穂期が最も要水量が大きい時期であるため、幼穂形成期以降は間断灌水を行い、減数分裂期（出穂 10 日前）～出穂 10 日後までは湛水を長めにとるように心がける。（この期間は最低でも黒乾状態でないといけない。できれば湿潤としたい。）
- ②被害の目安としては、日中は若干萎凋していたとしても、朝夕は正常に戻っていれば被害は最小限に抑えることができる。穂ばらみ期に葉の先端の水孔からの排水が止まる（日暮れになっても先端に水滴がつかない）と白穂の危険性がある。
- ③幼穂形成期に白乾で経過し、穂ばらみ期に急激に灌水状態とすると、根の活力が失われるなどして、登熟不良になることが懸念される。したがって、最初は「はしり水」などして湿潤状態で経過させ、その後湛水するようにする。
- ④少ない用水を効率的に利用するためには、溝切を実施することが効果的である。
- ⑤蒸発散量の少ない夕方から未明での灌水が、水稻の萎凋・枯死の被害を軽減できる。
- ⑥干ばつ後は土壤中の無機態窒素が増加し、水を得ると一気に水稻が吸収するので、異常伸長など水稻の生育にも影響があり、いもち病の発生を助長することもあるため、干ばつ後の入水・降水後に直ぐ施肥を行うことは避ける。
- ⑦干ばつが長く続くと、クリークに面した畦畔沿いに深い亀裂が生じて土手が崩落する「法（のり）落ち」が発生しやすいので、土手沿い畦畔の内側には敷きワラ等を行い過乾燥防止に努める。